平成29年度 江戸川区立平井南小学校 学校関係者評価報告書(学校経営計画・学校関係者評価シート)

学校教育目標	「体をきたえ、心をひらいてみずから学ぶ子 なかよく助け合う子 みらいへたくましく進む子」	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	明るく元気に活動し、より学びを深め、「生きる力」をはぐくむ学校 すすんで学び、心やさしい、明るく元気な児童 「見逃しのない観察」「手遅れのない対応」「心の通った指導」を心がける教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> 統合前の二校の児童が一つになり、平井南小学校での生活を生き生きと送り、明るく元気に活動し、自ら学ぼうとする「生きる力」を育む学校を創り上げることができた。 <課題> ユバーサルデザインの考えを授業づくりや環境づくりに取り入れ、学校生活を生き生きと送り、より学びを深め、「生きる力」を育む学校づくりを進める。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	評価指標・評価基準		自己評価			学校関係者評価		次年度に向けた改善策
			取組指標	成果指標	取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
①21世紀にふさわしい教育の推進	1. 学校図書館活用の推進	図書館を活用した授業の充実	朝読書…25時間 読書活動…15時間	図書館を活用し探究的な学習や読書活動に取り組み姿が見られた。	A	A	○各教科・総合的な学習で図書を活用し、探究的な学習を行っている。	A	・図書室を見たが、子供たちが本を見つけやすい様に、きちんと整理されていてよい。	次年度は「読書科」の時間も含め、さらに探究的な学習を進めていく。
	2. ICTを活用した授業の推進	ICTを活用した協働学習等の授業の充実	授業での活用…週5時間	ICTを活用した授業で、より理解が進み、いきいきと取り組む姿が見られた。	B	A	○ICTを活用した授業では、児童が生き生きと取り組む姿が見られた。	A	・タブレット等の数が増えるといふ。 ・安易な導入ではなく、＋αの効果を考え注意深く指導をお願いしたい。	教師用のタブレットをより使いやすくする環境が必要である。
②特色ある教育の展開	3. 小中連携教育の推進	小中連携を踏まえた児童生徒の円滑な接続の充実	教員交流…年6回 児童生徒交流…年4回	児童生徒交流において、いきいきと活動し、不安の解消が進んだ。	A	A	○小中連携プログラムの作成、作品交流・中学校体験などにより小中連携が深まった。	A	・小中の児童・生徒の交流で、簡単な挨拶等を英語で交わし合えるといふのではないが。	今後も継続し、作成したプログラムを実践していく。
	4. オリパラ教育の推進	オリ・パラ教育を踏まえた3つの視点に関する取組の充実	年35回	興味・関心が深まり、スポーツや運動により親しみ「多様性」の理解が進んだ。	A	A	○義足体験・掲示板の作成により、パラリンピックへの興味関心が深まった。	A	・よい取組が行われていてよい。今後も継続してほしい。	今後も継続し、さらに「多様性」の理解を深めさせていきたい。
③いきいきと学ぶ教育の充実	5. 特別活動の推進	協力してよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を培う取組の充実	児童会活動…23時間 クラブ活動…19時間	よりよい生活を意識した、自主的・実践的な態度が見られた。	A	B	○自発的な活動が推進された。	A	・自主的な制作活動という意味で、展覧会の作品が、児童一人一人よく工夫されていてとてもよかった。	自主的な活動が深められるよう、手立てを考えていく。
	6. 確かな学力の向上	補習の実施等による、きめの細かい指導の徹底	補習教室…年35回	一定の学習不安への解消が進んだ。	A	A	○きめ細かい指導の徹底により、児童の学習意欲を高めることができた。	A	・教職員の現在の努力に感謝している。	年間35時間の補習教室をさらに充実させる。
	7. 確かな学力の向上	チャレ問、ベーシック等を活用した国語、算数(数学)、英語の基礎基本の徹底	チャレンジ問題…月2回 ベーシックドリル…月4回	個に応じた指導が進められた。	B	B	○習熟度の低い児童の学習意欲の向上につながった。 ●個に応じた指導の時間の確保が難しい。	B	・効果が上がる様に、工夫してほしい。	さらに基礎基本の徹底を図っていく。
④相談体制健全育成の充実	8. 運動意欲の向上	休み時間や体育の授業における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	運動遊びの日…年20回 持久走週間…年1回	体力向上を意識し、運動に取り組もうとする態度が見られた。	B	B	○体育の授業や運動遊びでは、最後まで取り組む姿勢が見られた。 ●休み時間の主体的な運動をさらに深めたい。	B	・家庭と学校が連携し、子供たちの体力向上を図ってほしい。	中休みには原則外遊びを奨励し、主体的な運動遊びを深める。
	9. いじめ・不登校等の対応	いじめ・不登校に応じた未然防止と早期対応に関する対応の充実	いじめ調査…年3回	いじめ・不登校の未然防止と早期対応の充実ができた。	A	A	○いじめ・不登校の児童を出すことなく、終わることができた。	A	・朝の登校見守りで、子供の様子がわかる。気になることなどがあつたら、学校と連携していきたい。	いじめ・不登校ゼロを、今後も継続していく。
⑤特別支援教育の推進	10. 道徳教育の推進	思いやり、規範意識を重点とした道徳教育の実施	道徳授業…1年34時間 2年以上35時間	より考え、議論する道徳の授業を意識して行った。	A	B	○考え、議論する道徳について学び、実践した。	A	・心の健全育成は、地域・家庭・学校の連携が大切。	特別の教科となる次年度はさらに考え、議論する授業を推進する。
	11. 一人一人に応じた教育相談	特別支援教育コーディネータを中心とした教育相談及びスクールカウンセラーの活用	スクールカウンセラー…毎週金曜日	児童・保護者の教育的なニーズに応じた、指導・支援の体制がとれている。	A	A	○職員間での情報の共有・スクールカウンセラーと担任の連携などの体制がとれた。	A	・家庭の理解の上で、進めることが必要。	連携の体制を、今後も継続していく。
⑤特別支援教育の推進	12. インクルーシブ教育の推進	特別支援教育の理解啓発と授業における工夫	特別支援研修会…年4回 あおぎり研究授業…年1回	ユニバーサルデザインの観点に立った授業を行った。	A	A	○ユニバーサルデザインの観点にたった授業・環境づくりを行い、各学級での実践例集を作成した。	A	・今後も、取組を充実させてほしい。	実践例集を活用し、今後を生かしていく。
	13. エンカレッジルームの活用推進	支援を必要とする児童生徒へのエンカレッジルームを活用しての支援の充実	エンカレッジルームの活用	支援を必要とする児童へエンカレッジルームを積極的に支援に活用する。	A	B	○完成したエンカレッジルームの活用法について教員間での共通理解はできている。今年度は使用する必要がなかった。	A	・エンカレッジルームの有効な使い方に、配慮してほしい。	エンカレッジルームの効果的な活用を工夫する。